

おいしい話
その14
【橋】
高橋順子

四国八十八ヶ所の歩き遍路をした折り、珍しいと思ったのは橋のスタイルである。沈下橋とか潜水橋と呼ばれる低いコンクリート製の橋が清流にかかっている。幅は狭く、欄干のないものもあって怖い。

土地の人が言うには、経済的理由が一つ。もう一つは大水するとき、橋は川の中に沈む。流木などを橋がせきとめ、にわかに入造湖が出来たりすれば、災害は甚大である。それを防ぐための知恵であるとか。

今年、長崎県諫早に行ったとき、古色ゆかしい石造りの眼鏡橋を見た。天保十年、街の中心部を流れる本明川に架けられたのだが、水害時、頑丈さが仇になった。いまは公園の池の上に移築されている。池の水に眼鏡の形が映り、往時の記憶をたたえているようだった。

その帰り、橋が気になつて岩国の錦帯橋を見に行った。そこだけ浮世絵の風景である。夕方になり、橋のたもとが閉じられるので、急いで木組みの五連の橋を往復した。鶺鴒の舟が夜を待っている。

橋もいろいろ。私の「高橋」は「順」の字の中の小さな川にかかる橋である。お出かけ好きとよく言われた。